

事業所名

放課後等デイサービス おひさまステップ

支援プログラム

作成日

2025 年

1 月

17 日

| | | | | | | | | | | | |
|-----------|-----------------|---|---------|---|-------|----------|---|---|-----|---------|----|
| 法人（事業所）理念 | | 「遊びの中で学べる教室」 聞く力・発信する力・考える力・思いやる力。遊びの中にあるたくさんの力を少しずつ身につけていきます。 | | | | | | | | | |
| 支援方針 | | 個々に合わせた課題や環境を用意し、「やってみたい」という気持ちを一番に優先し、自ら取り組む中で様々な思いや経験を重ね、成長していけるよう支援します。お子さんの様子に合わせて、個別、小集団のサービスを提供します。家、学校以外の居場所として安心して過ごせる環境を作ります。 | | | | | | | | | |
| 営業時間 | | 月～金 長期休み | 14 9 | 時 | 0 分から | 17 15 | 時 | 00 30 | 分まで | 送迎実施の有無 | あり |
| 支 援 内 容 | | | | | | | | | | | |
| 本人支援 | 健康・生活 | 大人や友達とのやりとりを楽しめるよう、支援員が援助し、放課後にお子さんが安心して過ごせる場所を提供します。持ち物の管理、遊具の後片付けなどを自立的に行えるよう支援します。食事、おやつの部屋など複数の部屋を使ったりパーティーを準備し、お子さんが自分の事に集中しやすい環境を作ります。また、絵や写真のスケジュールを提示し予定を分かりやすく伝えます。 | | | | | | | | | |
| | 運動・感覚 | トランポリンや飛び石などを使って遊びながら身体を動かす時間を設けます。文字をなぞったり書く練習や、迷路や自立課題、制作活動などを通じて、目と手を一緒に動かす練習をします。 | | | | | | | | | |
| | 認知・行動 | 個別の自立課題の中で数、形、大きさ、時間、色などの概念を積み重ねて学習していけるように関わります。活動の終わりの時間に決まった音楽をかけて自分で行動の切り替えができるように支援します。パーティーや個別の部屋で視覚刺激の少ない環境を作る、イヤーマフを使用するなど必要に応じて、個々の感覚特性に配慮した環境を設定します。 | | | | | | | | | |
| | 言語 コミュニケーション | 自分のしたいことを伝える、手伝ってほしいときに援助を求めるなど、生活の中で必要な行動を適切な場面で発揮できるように支援します。それぞれの特徴やニーズに応じて、絵カード、ジェスチャー、文字などを使ったコミュニケーション手段を活用します。集団遊びのなかで「入れて」「替わって」と伝えて相手の返事を待つ、「いいよ」「あとでね」と返事を伝えるなどのやりとりがスムーズにできるよう支援員が見本を見せたり助言したりします。 | | | | | | | | | |
| | 人間関係 社会性 | グループ活動や、集団遊びの時間を通して、順番を待つ、ルールを守る、友達と協力する、失敗や負けを受け入れるといった、他者と一緒に生活していくために必要なスキルを身につける機会を作ります。友達との関わり方に関して、支援員が見本を見せたり、助言したりして肯定的な関わりが増えるよう支援します。 | | | | | | | | | |
| 家族支援 | | 日々の活動の様子を写真なども交えて報告します。心配な事などがあったときには、管理者、児童発達管理責任者にいつでも相談できる環境を整えます。 | | | | 移行支援 | | 必要に応じて、学校でのお子さんの様子を伺ったり、学校の先生とお子さんの様子や支援方針について情報共有します | | | |
| 地域支援・地域連携 | | お子さんの通っている他の放課後等デイサービスや担当の相談支援事業所などと情報共有するなどして連携を図ります。 | | | | 職員の質の向上 | | 年に3回以上の研修を行い、障害特性への理解を深めたり、よりよい支援方法を学びます。また職員会議で現在の支援方法等について検討し、お子さんや支援方法に関する情報共有を行います。 | | | |
| 主な行事等 | | 職員・保護者合同勉強会、避難訓練、交通安全指導など | | | | | | | | | |